



新鬼神論

共二

上

□ 10
36
1



新鬼神論

平篤胤著

漢土の古書にも小上帝后帝皇天ありといひるも唯尔

天と云ふも亦いふ可畏物といふも天津神乃

天上の坐る世中の事を主宰するを彼國人

も且推察するおもむきあり

は流し尚書皋陶謨小天叙有典勅我五典五惇哉

天秩有禮自我五禮有庸哉小康誥小子祗眼

厥父父字厥子弟恭厥兄兄友于弟天與我民彝

中毛詩大雅小天生烝民有物有則民之秉彝



好是懿德アハレトイフ 好は懿徳といふ言は多かり此等古今古語
 小祿チカキへる云ひさるる天神の産靈ムスビの妙ミタマある事
 小なるて人も物も生り出さるるそのおちる道道
 具て生るるものある事を心ゆく悟サトするさるるを
 次ツギに小論アゲツラふを足るへし

御ミコトを後世の儒者スサ是をどうも小託言カコツケコト小解釋アハレありて
 さいら程子の説小天道理チ便大道也且如説皇天
 震怒スト終不是有人在上震怒只理如是といひし朱子
 ハ天者理而已ミちといへる歎タカあり此意古小天といひ
 後上帝ミコトちといひて情も有もの如く云へるハ皆自他ミツカテの

理を修カ小かく云へるものありといふの義也コト亦モ次ツギに云
 へるを足るへし

然シカ也ヤもかく託言カコツケコトのごとくおれりといふ熟考ツクありて強後世の
 儒者スサのものあやまりのち次彼國大やりの風俗フウソクを
 此コノハ決キる御ミコトるる理コトありさるる外國トウゴクハ其コノ正チカ實コトの傳ツク
 説コトを失ナクひ適タテマ存コトする傳ツク後コトも長ナガ考カウ一ヒトく正チカ實コトの傳ツク
 漢カン土ツチハ生ナマ賢サトシき國クニ佑ソクゆる古コノ傳ツクの修ツク小云へるも何ナニと
 託言カコツケコトめありて聞ゆる也
 物モノハ其コノ小チカ考カウする韋陶謨ウヱウ康誥カンコ大雅ダイヤちといふこと
 何ナニとちと託言カコツケコトのかく聞きあはるる教也コト正實チカコトの傳ツク後コトを

らぬ今この此を託言と思ふも實ハ理ふざりり

終ふハ此天津神の世乃中の事を主宰り終ふと云ふも代

好きは實と云ふ奸曲き輩は亦も上帝の命天命と誣詐り

おの罪を文る云ひ終ふと云ふ

さうハ殷湯王の夏氏有罪予畏上帝不敢不正といひて

此の君を放し周武王ハ今予發惟恭行天之罪と云ひ

上帝降顯大佑云々神明詔告屬予以天下兆民云々

是ありお保敷多あるを今ハ其長ものを奉け故

さうハ漢籍ハ天を本と云ふと云ふ古意あると託言ハ

託言ハ云々の別ありおハよく辨ふべき事あり故て

世の移り来ぬるまじく流益と託言のかく云ひ傳の

古ハより云ひ傳へる一執考を共ひ疑く少き悪賢の

之漫りつるその說皇國中々不及ひと古より漢學乃

今此癖を免せしむるべし

漢學其の云ふは古の事を説る人々も此ハ智

見ハ溜瀕甚と云ふ正實の傳説を云ふ寓言の如く

解き曲ぬ

其ハ中ハ近世とありて古學ハ其事を倡へ出さる儒

者ハ其何事も先儒の語也其説を多く見聞き

以て上は後しき後の多るる天^{アツカミ}帝を説き其^{ホカ}徐^{ホカ}去^{ホカ}て
鬼神^{カミ}の事^{コト}を論^{アケウラフ}了^{ラシ}の^ハい^ハし^ハ先^マ儒^{ニウ}の^{コト}説^セ小^コ心^{シン}解^ゲ陽^{ヤウ}
の^ハ之^ノを^{シテ}説^セを^ト難^{トガム}ま^シと^シ甘^{カン}陰^{イン}の^ハ誰^{ナニ}も^モ彼^{カノ}の^ト託^{トク}言^{ゴン}の^ハ界^{カイ}を^シ
少^{コト}く^シ然^{シテ}ハ^モ更^{マシ}に^モ唯^{タダ}い^ハた^ハゆ^ハふ^ハ其^ノ皮^{クニ}膚^フを^シ変^ヘへ^ルの^ハ欠^ケ
み^ハく^シ更^{マシ}に^モ其^ノ肉^{ニク}身^ミハ^モ更^{マシ}に^モ是^レヲ^ハ將^{ハク}古^コ意^イ不^レ徠^カへ^ル説^セの^ハ
出^イ来^テる^{コト}事^{ナリ}也^{ナリ}

さる^ハ其^ノ古^コ学^{ガク}者^{シヤ}と^シ今^{イマ}ノ^ハ中^{ナカ}小^コ物^{モノ}部^ブ祖^ソ徠^{ライ}と^シ心^{シン}
廣^{ヒロク}く^シ戈^カ秀^{シュ}く^シ更^{マシ}に^モ普^フ通^{ツウ}ノ^ハ漢^{カン}学^{ガク}者^{シヤ}等^ト並^ヒち^シ取^リ
世^セノ^ハ此^{コノ}人^{ヒト}也^{ナリ}古^コ義^ギを^シ得^エ以^テ易^イ小^コの^ハ大^{ダイ}ゆ^ハ以^テ神^{シン}道^{ダウ}
説^セ教^{カウ}す^ル禮^{レイ}記^キ小^コ明^{メイ}命^{メイ}鬼^キ神^{シン}以^テ為^ス黔^{セン}首^{シュ}則^{スレバ}ち^ハと

や^ハノ^ハ古^コ意^イ也^{ナリ}如^ニ語^ゴと^シも^モ惑^{マド}ひ^ク賓^{ヒン}ハ^モ鬼^キ神^{シン}と^シ以^テ
物^{モノ}を^シ假^カく^シ教^{カウ}ノ^ハ則^{スレバ}と^シ為^スし^ハる^ハも^モの^ハ有^リと^シ思^フハ^モ舊^{キウ}弊^{ヘイ}ノ^ハ
也^{ナリ}其^ノ民^{ミン}敬^{ケイ}焉^ニ無^ク統^{ツウ}知^チ有^ル母^ボ而^{シテ}不^レ知^ラ有^ル父^フ云^フ死^シ無^ク葬^{サウ}而^{シテ}亡^ス
無^ク祭^{サイ}云^フ聖^{セイ}人^{ジン}之^ノ制^{セイ}鬼^キ以^テ統^{ツウ}一^{イツ}其^ノ民^{ミン}と^シい^ハり^ハ亦^モ是^レ也^{ナリ}
臆^{オビ}度^{タク}牡^{シウ}撰^{セン}ノ^ハ説^セあり^ハ去^リて^ハ漢^{カン}学^{ガク}者^{シヤ}ノ^ハ弊^{ヘイ}と^シて^ハ假^カ
く^シ民^{ミン}好^{コト}事^{コト}ハ^モ亦^モ聖^{セイ}人^{ジン}ノ^ハ制^{セイ}也^{ナリ}初^{ハジメ}め^ルと^シの^ハい^ハり^ハ亦^モ
是^レ以^テ也^{ナリ}智^チ見^{ケン}狭^{キョウ}く^シ愚^ウか^ル事^{コト}也^{ナリ}抑^{ヨメ}人^{ジン}ノ^ハ生^ウれ^ル也^{ナリ}
み^ハく^シ誰^{ナニ}も^モ鬼^キ神^{シン}を^シ教^{カウ}ふ^ハを^シ知^ラず^ハ是^レ天^{テン}津^{ジン}神^{シン}
ノ^ハ命^{メイ}也^{ナリ}知^ラず^ハ性^{セイ}也^{ナリ}則^{スレバ}道^{ダウ}也^{ナリ}漢^{カン}國^{クニ}人^{ジン}也^{ナリ}

と云聖人おしはるものいふは己の心や鬼神をそむるを
まゝにむるも亦その情あるは法々々聖人といふ弊の
則を制めたるもの也中庸小率性之謂道脩道之謂
教と云へるも此謂あり又同鬼神論小謂之有者權
在彼者也謂之無者權在我者也權在彼者疑乎仁
其失惡也權在我者疑乎智其失賊也惡與賊君子
不由焉且也有無者鬼神之迹也たといひ自去仁
智とを兼つるさゆふ論ひふと此は宋儒の説や
辭の異あるのふしと意におしる也中ふも亦さ
邵康節いへる鬼者人之影也人者鬼之形也たや

の説を先正有言たといひて首張り多し更不但殊
の所為^{レツサ}も賞^レたむ中伊藤東涯たも不窮
鬼神於有無此善窮鬼神者也といへるもかやの
説ともハ朱子既く云ひ盡たり其れ某文集小鬼神之
理聖人蓋難言之謂真有一物固不可也謂非真有
一物亦不可也たといへる數は多かり古學者流
の説は何乃異あるりある新て宋儒の説を破る
とも誰^レ其説を信^レたといふもたへる鬼神を有無
小窮め論ふことハ道辭^レふく實小有と從むすれ
た奇怪小沙^レり理の外なきこと無といふもすれ

其迹ありて灼然イテルニキ不オボシ也ハべく何ナニ高妙オボシ不オボシ也ハと
あやふしシテ説セて人ヒトを欺ヒく好ヨクき新シ為ヲを採ツクかく人ヒトの
僻ヒカコト説セを去サひ露アラハけりハあぢきあら新シ為ヲのごとくされ
憎ニクむあふ人もあつとされと只ヒカコト不オボシ僻ヒカコト説セありとのニ云ヒてハ
其イカ後ノもをいささるハ足レ以テ彼ノぬ今ノのぬハあるハあふよりて
悪クしとちあふと不イブカレ審シく思ヒたもとの心配ココロシニヒあり足レむ人
其ニ罪ヲを怒ルし初ハジへばあぢうハと云フ

おと復カヘ古コとハ云フへとも清キヨクく古コ意イ不カヘ復カヘらさハあてハ云フてハ云フてハ可アタラ惜シ
しミきりありハ實ミコト不カヘ復カヘ古コの志シを太タクシく為ナしハともハ只ヒカコト不カヘ孔子コト
の言コトと行キコトひハしハしハのニ徴シありともその實ミコト有アルあるハおとハ知ルるハべき

を今イマまでサ熟サるハ人も聞クえざるハいふハもハ是コト誰ナニも書キ籍キの上ノの
空カレ説セふのニ拘コト泥ニてハ熟サく昔コトの事コト實ミコトと孔子コトの言コト行キコト心ココロ當トク
さハあふハしハもハ思ヒふハ孔子コトの靈ミコト黃ワウ泉セン不カヘ在在てハ然サと云フひハ甲カウ斐ヒ
あハくハ思ヒふハもハ林リン漢カン國クニの事コト漢カン籍キの上ノのハ儒ブ者サと云フ
あハ我ワガ徒トモの煩ワラフハハ云フハハいハはハもハあハりハゆキもハのハあハりハと云フを
熟サく辨ワキへハものハをハ漢カン学ガク者サのハあハりハをハ餘カク計ハチしハ見ミはハ不カヘ
得エ堪タマぬハ露アラハけりハ事コトあハりハと云フてハ論ロンひハ試シたハもハ思ヒひハあハりハ
く今イマ孔子コトの言コトも行キコトとのハあハりハ鬼神クワンシツの上ノ不カヘ及キてハ論ロン語ゴ
と中庸チュウユウ小コ摘ツク出イデすハ

秦漢以前の書にも孔子の言行の見え方最イテ多クき

中小論語と中庸の書を挙ぐることハ餘の書ともあるハ
傳聞の誤りアヤマリ、後人の杜撰ツクリモノあるハ信偽も詳ありぬ
あともお混マシりて今もよく論ひる書もの多うれた
其を挙ぐるハあつてヒツク 嚮キョウ不迷ミへくもあまハあつてヒツク 徴シハ
取トルく原ハラはくも論語と中庸とを熟く讀ヨミく考カウふは
孔子の言行小思シぬるハありしや思ひての所シヨあり
凡オノも人怪オドロクしむことありし

大概ハ漢國の事實オホクタと合ヒせてシ 徴シと古傳コデン後ノチ照テラしてその
實有シあるをサト曉サトしする固カタハあつて神祇カミの事コトハツク 涉セツする
等トシを古意コイを以もつて論ロむとあり漢學カンガクの人ヒトとサシはくハ

孔子の母ハハ意母イボ必母ヒボ同母トウボ我ガてシ情ニありシハ公平コウヘイありシことヲを
持モてシ熟ジュクく見ミ別ベツちカ編ヒひケりト

さて中ナカに誰タレも天アメノカミと鬼神カミノミコトを別ベツちカ論ロぶ事コトハツク 實シハ
然シカカニきツきツあリと其カ靈レイ威イありて奇クシ異イあるハ同トなり
小コと大オホを相アヒ通カヨハリて廣ヒロクく鬼神カミノミコトといハふハ次ツギにツク 舉トげル

中庸の文コトハ鬼神カミノミコト之ノ德トク其カ盛シ矣イ乎ヤ云ハクことと云ハクひ左傳サデンと
鬼神カミノミコト非シ人ニ實シ親ニ惟シ德トク是レ依ル故ユ書ハク曰ク皇天クニノカミ無ク親ニ惟シ德トク是レ
輔サふといハク 數タカシ多クあり是レも天地チノチの非シを廣ヒロクく鬼神カミノミコト
と云ハクハシ今イマ此コノハ天アメノカミも鬼神カミノミコトも實物シヤクあるハを
曉サトさむとのツきツありハ一ヒトツふハ也ナリと天アメノカミハシてハ神カミ也ナリ

云ひ地ふしてハ祗と云ひ人ふしてハ鬼といふやいひする神
も伸あり鬼ハ歸也あといふ斷の甚くは居き申しては後
の多きも是も是く取らばおしあして此ハ只ハ鬼神
也といふ也されといはて叶ぬるハ序に云ふ魚し
抑漢土の古ハ上帝后帝皇天と云唯ハ天といはるハ皆
同なりふて前ハ云へる如く後物を指て云へるふて託言ハ
あり後物もハ毛詩ハ文王陟降在帝左右と云へる形也
きをいひて左右といはる也

然るを朱子あといはる今若説文王眞箇在上帝之左
右眞箇有上帝如世間所塑之像固不可也然聖人

如此説便是有此理といへ天津神の形形容ハ如何
小坐ハ知れ補とも既ハ言ハ行の灼然れを
持の形乃坐すことハ申奉るも更あり以て是を
不可ありと云はる朱子の説ハ今人但以主宰説
上帝謂無形象恐亦不得若如世間所謂王皇大帝恐
亦不可也云へるやに形を有無ハ窮免ハ論ふ
あはハやうの心なきまき説ありかし
孔子曰く君子畏天命小人不知天命而不畏也申獲罪於
天無所禱也申欺天乎申知我者其天乎といへる
形なく情なき物をいひて我を知るハ云ふハ云ふ

然るを伊藤仁存の論語古義小此を満ひと云
何謂天知ト乎曰天無心以人心為心直則悦誠則信
と云へるハ儒者トしてあとして如是孔子の言行ト暗きや
但徒の徴論語徴是を破りて熟謂仁齋先生非理ト学乎
と云へるハ實小トさるゝ也

此等の言としを熟考ヨシカムカへるとむ小孔子の天上ト小万物の神
在て世中の主宰ツラサトを初トをよよく悟りて畏ト
へず欺くや天津神の心ト背タカヒくハ他ホカ小祈イリる神トありと
畏オモヒりて事を思ひつゝ其ハ天津神ハ碎言ハ諸神の
君の如く坐トとあり

此を天帝と云ひト只小天とのと云へるハ碎言ハ山川之神
其舎諸と云へるを山川其舎諸とある山川の字義の
如く其在所を以て云へる也

中々天神地祇の祈為の著明くト感格ありしを
云々ト中川史記の周本記小姜源と云へる女ハ巨人の足跡を
履フミく妊ニて産ウミく子を奇怪アヤシくと棄ステくト鳥獸トリケモノも乳を
含めあとして嘗シひト小驚オドロきト其子コ育ヒタす棄キと名
をナツ

古史周の翹カヤあや左傳小楚國の鬬伯比と云へる者却と
云ふ國小畜ヤシナを以て其祈イコの女メヌメ小奸クハくて子を生ウマす女の

親^{イカ}を怒りて、子を夢^{ホウ}とらひ澤へ棄てし
小虎^チを乳^チを合^{フタ}し、乳^チを奇^{アヤシ}とて、終^ヒ其子を厭^ヒし
事あり、よく似ある古事あり

中^{ナカ}有^{アル}娥^{ワカ}氏^ノの女^メハ玄^{クワン}鳥^ノの墜^{オト}セ、卵^{タマゴ}を吞^クク契^{セツ}と云ふ子
を産^{ウマ}多^クりき

亦^ト是^{ホツ}殷^ヤの遠^ト祖^{オヤ}あり

此^{コレ}等^ラ鬼神^ノの託^レ為^サ著^イ明^チきとの事^{コト}ありすや

此事^{コト}を明^ミ乃^ハ揚^{ホウ}用^{ヨウ}修^{シウ}と云ふ者^{モノ}論^ロひて、証^シ妄^{マウ}の從^シ也^{ナリ}
是^{コト}とし此^{コト}の詩^シハ天命^{テンメイ}玄^{クワン}鳥^ノ降^ク而生^シ商^ノと云ふ語^{コトバ}ハ
ある事^{コト}ありて作^サす事^{コト}ありと強^レく妄^{マウ}説^{セツ}と為^スす

多^クれと母^{ハハ}古^コハナシと漢^{カン}人^ノの例^{レイ}の獨^{ドク}き智^チ見^{ケン}ふより信^{シン}さる
あり此^{コレ}等^ラの類^{ルイ}ハ本^{ホン}知^チふも神^{カミ}異^イあること數^{カズ}るに
厭^{イヘ}あり頃^{キョウ}と云ふ毛^{モウ}詩^シあり此^{コレ}古^コ事^{コト}の實^{ジツ}ありて
作^サす詩^シあり此^{コレ}詩^シハ依^ヨて作^サす古^コ事^{コト}と云ふ
本^{ホン}末^{マツ}多^クし今^{イマ}世^セは此^{コレ}類^{ルイ}を奇^{アヤシ}異^イきする事^{コト}あり
あり况^{ニシテ}上^{ウヘ}古^コ小^コおひてを更^サ小^コ能^ノくへき事^{コト}あり
朱^{シュ}子^シの語^{コトバ}類^{ルイ}ハ此^{コレ}等^ラの事^{コト}を云^イひて非^ヒ可^カ以^イ常^{ジョウ}理^リ論^ロ
也^{ナリ}といひ中^{ナカ}の當^{タウ}時^ジ恁^ニ地^チ説^{セツ}必^{カナラ}是^シ有^{アル}此^{コレ}乎^ヤ不^フ可^カ以^イ聞^{ブン}見^{ケン}
不^フ及^キ定^{テイ}其^キ為^ニ心^{シン}無^ムといふ朱^{シュ}子^シハ云^イふ事^{コト}あり
古^コとあり

中々感格ありし事ハ殷高宗ハ爰小天帝ノ良弼ヲ登
ふとて傳説ト云ふ人ヲ以テ

此事をも揚用脩ノ論ハ高宗民間ニありし如
傳説カ賢人ありしヲ知テ此ヲ舉用むと云ふ
民ノ從ふしきヲ思ヒテ殷人ハ鬼神ヲ信ス
俗ハ爰爰小託テ舉ぐるむといハ是モ亦臆度
ノ杜撰アリ五雜俎ト云ふモノハ揚用脩最稱博識
亦善杜撰と云ヒテ志々此人ヲ惡メテ語ある
信ある事ト云ハ朱子モ只是夢中事説是帝
真齋不得説無此事只是天理亦不得と云ハ

中々例の如き事ハ説さぬ高宗ハ賢人ありし事ト云
これハ然と云ハ誠心小神ヲ信スルハ禍
ありと云ハ事ハ疑ハる事ハあり原も千百年
眼ト云書小傳説事世咸疑之以為夢而得賢可也
云々蓋シ云夢齋者實帝感其恭默之誠而登之也
云々鄭之夢鹿而得真鹿心誠於得鹿者可以得
況誠於求賢而有不得者乎と云ハ事ハ誠
あり

中々周公且ハ祖宗ノ神靈ヲ願テ天津神ヲ禱ヲをし
その兄武王ハ疾ヲ瘳シ其後武王ノ子成王小罪ヲ以テ

他へ出吾々もふと云く神の荒ひありたるも成王驚きて
周公且つ眾かりしるを悟りしるあり誠情より禱するの
感心ありしかくの如し

此の尚書の金縢ふんえんするあり明人王康張和仲
あとの中書あまを論じて云く周公面鄧二公穆上
以為未可戚我先王矣陰乃私告三王自以為功此儉
人佞子之所為也而謂周公然之乎死生有命周公
乃欲以身代武王之死使周公而然則為不知命且
滋後世割股醮天之俗周公元聖豈其然乎亦
云ひて金縢を偽り書ふるとある巨細論ひしれと

金縢ハ伏生ハ傳へたる書なく古書あるを論ひるを
斯の如く此ハ周公且つ鬼神を信しざるを異みてな
る也夫は聖人と云ふものを解りふとく思ひて却
て悪く云ひるはつぎ也物ハ聖人と云ふと必
善人ありむも其真情ハ凡人不異あるもあらず
これいひて神の威靈を仰ぎむとて神を禱
する感心ありざるを云くやむ物ハ後世の儒者
等已てその智見の狭く神を去るざる不競て古人
の真情を信へず疑ふ其をいふも果して聖人
たるものハ普通の儒者あつたことく人情不疎く鬼

神を信せざるものありたり此も嗚呼ものごとく
ありては儒者の聖人たる人の言行を解くをん
解くも言妙不説をん更小人情なき嗚呼人
をん不説多くをん心くしく片抜い多
説等の多きあり中を以旦代某之身とあり新の註
釈小死生有命不可請代聖人叙臣子之心以垂世教
ありやふ云ふ説多し此は不真のそとありを
伺ひ知るぬ若しものいふ不母多しぬ嗚呼説ふりき
中此は不金條の辨ハ用ふきよ似多れと事の本
あるよしを知らざるもの不為あり金條のありる末

ふも出せり合く考ふし

孔子云く鬼神之為徳其盛矣乎視之而弗見聽之而
弗聞體物而不可遺使天下之人齊明盛服以承祭祀
洋洋乎如在其上如在其左右曰神之格思不可度思矧
可射思夫微之顯誠之不可掩如此夫予鬼神を祭
祀て感念あることを云ひて事死如事生事亡如事存
孝之至也郊社之禮所以事上帝也宗廟之禮所以祀
乎其先也明乎郊社之禮禘嘗之義治國其如示諸掌
乎と云ひし中至誠之道可以前知國家將興必有禎祥
國家將亡必有妖孽見乎蓍龜動乎四體禍福將至善

必先知之不善必先知之故至誠如神

礼記の本、家語あとの我戰則克祭則受福蓋

得其道矣と云へることも又えある思ひ合はし

あと云へり孔子自らくいつたのち原其弟子等の孔子の鬼神へ對しての形狀を記して祭如在祭神如神在云ひ

此よりあ本末の委曲云へり合を見らへし

予の有必変食居必遷坐す迅雷風烈必変あといふ後世のい出は説の如く上帝とも鬼神とも自然の理を倣ふといふて實に形容も心もあはれども

是を察するは聖人の民を安んずる術を設けたる事あやと

云を國も徳不洽は徳不禍福を知るたうその感念あは

いふややする事實の迹あるをいふといふはむす又

無心の死物を孔子のいふてんをいふと畏きよと云へる

自も教の色の変るやとて思ふへき所謂あきとあはれや

平常の言行とくと思ふ愚夫鬼女子あとの口けもれ風

雷や奇異するを畏る教しては世中のあはれと

天神地祇の奇妙ある所行不洩するあはれ別れ迅

雷風烈あはれ神の尊びといふも可畏く何の故何の

理り不依てかとも測るるに依て畏き敬ひるある

魚し鯉^{イサ}を儒^ブ者^サの云^{イハ}天^{テン}ハ積^{ツク}氣^キみ^て夏^{ナツ}ハ陰^{イン}陽^{ヤウ}の相^{アヒ}軌^キて
激^{ゲキ}する^{コエ} 風^{カゼ}ハ陰^{イン}陽^{ヤウ}の動^{ウツク}靜^{シヅム}あり^およ^ひひ^て只^{ただ}陰^{イン}陽^{ヤウ}と
以^もを^の事^{コト}一^{いつ}と^も其^{その}陰^{イン}陽^{ヤウ}と^も物^{モノ}を^死物^{モノ}と^をむ^ら
活^{イキ}物^{モノ}と^をむ^ら 死^シ物^{モノ}あり^ん小^こハ激^{イキ}古^こる^ことも^もち^かく^初靜^{シヅ}も^ある^る
一^{いつ}決^キて^キ活^{イキ}物^{モノ}あり^とも^も論^ロひ^かし^既小^こ活^{イキ}物^{モノ}あり^上ハ靈^{レイ}あり^る
こ^こ論^ロひ^かし^る 陰^{イン}陽^{ヤウ}ハ死^シ物^{モノ}あり^とも^も激^{イキ}動^{ウツク}靜^{シヅ}あり^るハ自^{オノ}然^ノ
あり^と云^{イハ}む^ら 小^こ自^{オノ}然^ノ動^{ウツク}靜^{シヅ}さ^する^らハ何^{なに}物^{モノ}を^死物^{モノ}あり^る
陰^{イン}陽^{ヤウ}を^動靜^{シヅ}あり^しむ^らハ決^キて^キ活^{イキ}物^{モノ}の^神を^死物^{モノ}と^をむ^らる^こと
疑^{ウタガ}ひ^かし

此^{コレ}小^こつ^つて^モ論^ロあり^る也^{ナリ} 此^{ココ} 淵^{ウチ}堂^{ドウ}院^{イン}と^も國^{クニ}の^学問^{ガク}始^{ハジ}り^て

此^{ココ}大^{オホ}江^エ戸^コあり^と小^こハ是^{こゝ}を^学ぶ^人多^{おほ}く^と 試^シや^彼國^{クニ}人^トを
源^{タチ}く^物の^理を^究む^こと^を好^{この}む^何れ^と考^カゆ^多く^も
多^{おほ}く^との^中小^こエ^レキ^テル^てる^器あり^此ハ雷^{カミナリ}や^電の^理
を^考へ^造る^るよ^しの^器あり^る 往^イ年^ニ或^モ人^ノの^許に^て
尺^シ多^{おほ}く^し小^こツ^ツの^箱の^中へ^作り^置て^雷電^ノの^形容^ヲを^を
観^ミむ^とす^る小^こ人^ニ三^{さん}人^ふて^其事^ヲを^為す^一人^ハ床^{ツク}机^ヲあり^し
坐^マす^彼箱^ノの^上あり^竹筒^ノ小^こ附^くる^糸あり^一人^ハ箱^ノ積^み
の^方より^出る^棒の^如き^との^を糸^ヲ車^ヲを^まり^ら如^くき^る糸^ノ
一^{いつ}人^ハ倉^{クラ}あり^と造^らる^少き^糸あり^と棒^ノの^やし^しる^{もの}
を^彼床^{ツク}机^ノに^在る^人の^糸あり^と減^へる^電の^如き^光あり^と

少き智もて工出さるる善ありていづく其理の知る是作
む然やの浅くある信度ハ篤胤ハ更しく信ひ作ら
ざる事小此を熟く辨むとおぼさるる事ハ人智の狭き
舊習を忘るる信古を学ばしむ知ふ能ひ福といふ
此人以て腹を去るるおぼ何れと云ひ争ひといふ論は
とも従ふへき容小んえ福ハ我もあらん君の志心の隨意
と云ひて己ハ功ありし

中る鬼神者二氣之良能中る鬼神者造化之迹おもとらふ
説もあらず実小二氣者鬼神良能中る造化者鬼神之
迹あるを必かく奇妙ある天地の神の所行あること

漢土も古實小鬼神を敬ひて了ゆ急を被いみきり小せり
あり是其道ふかあるるありて復殷の法中て然ありし
きりあり斯く周の代とありても尚上古の俗波少能を
祭る事を重員しとらふ

然る左傳成公十三年の傳小國之大事在祀與
我とんえさるるも知る此ハ祖祿の鬼神論小先
布幕十有二月而祭祀居其半禮有五經莫重於
事鬼神而獨其與戎為國大事其官與物相恐其
弗備而經弗具不問受福降殃諱々乎言之是庸
何虚設乎と云々

追々生賢き風俗漫々神祇を祀る事ハ大畧ハ民より
敬をせぬやとの云術の如くあり未だも少くは西戎の
元来薄惡ある國俗ゆゑといひあう我老翁のいへば
もめも厚小周公且ちその解り小賢を先とせざる後
述ること少く易聖人以神道設教といひ禮記小弁鬼神
以為黔首則中る喪祭之禮所以教仁愛也とあるの治ハ
る前後の小賢き世とありて云ひ出する言ともあり物
論語中庸あるに及んて孔子の語とも小かく実あるに
語ハ一つも及んては

解の書等小孔子の語とてあるに物も實意あるに

言も多くと及んては已に更不信に其謂あるに及んて
といつと母かる語ハ及んては佛を及んては孔子の
意とハ及んては

まへに西戎國の事ハ元來正家ありしをも及んては
への文一通あると及んては

然るに及んては失つし節ハ及んては
堪に飲食ものも及んては
新も及んては事あり此に彼國も古くは誠小然る
者も有らんや物を及んては
すきり小制を及んては

也等一其ハ畏る心もあきを人ハ畏まよとや及へたる其言
を信ニコトふやんとて畏まぬふサレてあしつるふく彼の似く非
あつものういへて孔子ハ然サる偽マりの行をワサあして人を欺アサむ
や自も巧言令色鮮矣仁とも云つるふあつひや

亦本妻く云り孔子ハすくその言行より外ハ隠カクす方
心ありしと見えく二三子以我為隠乎吾無隠乎爾吾
無行而不與二三子者是丘也と云へるも普通の論の
如くあつハ此も偽り言とあつるを女メ實ニハスき人ハ
尺園のち次ツ孔子自らも色取仁而行違チガふとをハいしめ
る

たつをやくる大學ハ誠其意者毋自欺也と見えく
もやと西戎國ハ賢人といえたる軍ハも生涯自欺
きうと尺ゆも多うれと孔子のこハ然サる人ハ思ひれ
天アメ上ノサキ年トシ死シ
斯カのちと其言コトと行オモヒと心止く察もてゆ々ハ更カる度カなる
こコし

論語ハ子曰視其所以觀其所由察其所安人焉廋
哉人焉廋哉

其實コトをミてハこトを悟サトへる畏ま教へると論コトあし
此ハ真マコトの道ミチハ志コトハハ四季ヨシノトキ宜ヨク知チる本キ経キゆキあり

さな^{ヨロツ}の^オおの^オ生^オり^オ出^オる^オか^オとも^オ悟^オり^オぬ^オへ^オき^オ事^オあり
腐^ア儒^ア者^ア流^アの^ア如^アく^ア天^ア地^アと^アら^アふ^ア一^アつ^アの^ア大^アき^アふ^ア奇^ア怪^ア物^アの^ア
中^チ間^チふ^チを^チと^チこ^チう^チ解^チの^チ大^チき^チふ^チ奇^チ怪^チき^チもの^チあ^チる^チを^チと^チき^チ
不^フ得^フ知^フら^フん^フ己^フの^フ智^フと^フ力^フと^フ及^フば^フぬ^フか^フき^フる^フの^フ事^フハ^フ必^フず^フし^フ
決^キむ^キる^キ数^キの^キ愚^キ昧^キあ^キて^キハ^キあ^キし^キ

比^ヒて^ヒ中^ヒの^ヒ論^ヒ語^ヒ不^ヒ語^ヒ怪^ヒ力^ヒ亂^ヒ神^ヒと^ヒん^ヒん^ヒの^ヒ孔^ヒ子^ヒ自^ヒも^ヒ現^ヒ不^ヒ
天^テ上^テの^テ世^テの^テ事^テを^テ主^テ宰^テ神^テの^テ在^テら^テぬ^テと^テい^テう^テ語^テの^テ足^テら^テぬ^テハ^テ此^テも^テ
前^メふ^メも^メ云^メへ^メる^メ如^メく^メ漢^メ土^メふ^メハ^メ正^メ實^メの^メ傳^メ説^メを^メき^メる^メより^メく^メ詳^メふ^メ
ち^チの^チ能^チは^チ古^チより^チ云^チひ^チたり^チとも^チ大^チ凡^チの^チ人^チハ^チ彼^チ蘇^チ姑^チ射^チの^チ神^チ
人^ニの^ニ説^ニき^ニる^ニ如^ニく^ニあ^ニる^ニゆ^ニえ^ニふ^ニ云^ニえ^ニぬ^ニあ^ニる^ニし^ニ

正^シき^シ傳^シ説^シを^シ聽^シ居^シる^シ皇^シ國^シ人^シふ^シよ^シる^シ神^シの^シ御^シ祈^シ行^シを^シ
信^シん^シぬ^シ人^シあり^シ況^シ傳^シ説^シを^シ漢^シ國^シふ^シお^シいて^シを^シや^シ蘇^シ姑^シ射^シ
の^ノ神^ノ人^ノと^ノハ^ノ莊^ノ子^ノ道^ノ遙^ノ乃^ノ篇^ノ蘇^ノ姑^ノ射^ノ之^ノ山^ノ有^ノ神^ノ人^ノ居^ノ
焉^ニ肌^ニ膚^ニ若^ニ氷^ニ雪^ニ淳^ニ約^ニ若^ニ處^ニ士^ニ不^ニ食^ニ五^ニ穀^ニ吸^ニ風^ニ飲^ニ露^ニ
乘^ル雲^ニ氣^ニ御^ル龍^ニ而^シ遊^ル乎^ニ四^ニ海^ニ之^ニ外^ニ其^ノ神^ノ疑^ル使^ル物^ヲ不^レ疵^ル
腐^ラ而^シ年^ヲ穀^ヲ熟^ス吾^レ以^テ是^ヲ狂^ト而^シ不^レ信^ス也^ト云^フ此^ノ神^ノ人^ノの^ノ寓^ス
言^ク俗^ノの^ノ天^ノ津^ノ神^ノの^ノ御^ノ祈^ノ為^ノを^ノ傳^ノ説^ノを^ノ是^レを^ノ云^フ
此^ノハ^ノ於^テ其^ノ所^ニ不^レ知^ス益^ヲ開^ク如^ク也^トい^フ言^ノの^ノ虚^シし^ク後^ニ世^ニ
儒^ノ者^ノ亦^シと^シ漫^ク不^レ臆^ス度^ヲを^ノ數^フふ^ハあ^るや^らず^や
中^ニ若^ハ云^ハひ^下り^し其^ノ語^ノの^ノ傳^ル如^クぬ^ルも^ある^ハ不^レ語^ス

怪力亂神キハとあるをもて決キハめく神怪を語ることなし
と云へる人もあると同書ドウショ不鳳鳥不出河不出圖吾已矣スレ
夫と云へる上古カハ伏羲といふ時河中より龍馬の圖
を肩カひて出ると云へる人もあると云へる鳳鳥ハ聖人の世の
祥瑞とやむわして舜の時中ナカ周文王の時小出と云へる
事あるべからず神怪を語る事強ておとすべからず
此外書コト不神怪を語る言コトの足らざるハ今教へる所
ありん

さて傳説ツタヘコトおとす天津神の世中の萬事を主宰ツカサツとなす
ことゆゑ人の存亡禍福シツワを神の決シツ断ワツとなす實マコトハ人カハ
及ツキひる事と云へるも容易タカヤスく知りたる事なり孔子も五十而
知天命チンメイと云りき

此語を以ても孔子の天命を云へるホカ解カの戒人カライヒトもの天命
ことと云へるハ大さ小異カコツケコトなり更さら不託言カコツケコトハありぬと云
悟サトへ

此ココ實マコト不レ然サもある一志イツの述ツトとも正宗の傳ツトへおとさうら
のこゝに在アる國クニ不レ生マれぬと云へるも鬼神カミの奇妙シクミョウな理リを悟
する是ココ實マコト不レ孔子の大きオホく凡ソド人ヒト不レ備ヘせざる事コトあり解ホカ
戒人カライヒト等のわけも及ツキりなき事あり

中庸チュウユウ不レ唯タ天下至誠チン為能キ知チ天地之化育チと云へるハ誠マコト

後了語あり

さて然天津神の沛所為を悟りて彼の董仲舒之道之
大原出於天といふ如く此理を知りて道の大本不昧く
しく時勢不違を以人情不沫して政も亦在るぬ
あり故

時勢をよく知る人情を熟く知るは政を執る人の別
熟く心得へざるは政を執る人の別

魯哀公、政を問ふ、子曰、為政在人、取人以身、修身以道、
修道以仁、仁者人也、親親為大義者宜也、尊賢為大親親
之殺尊賢之等禮所生、故君子不可以不修身、思修身不可

以不事親、思事親不可以不知人、思知人不可以不知天、
政を治るは天津神の沛所為を考へて本とせり、不知
命無以為君子也と云へるも此意あり

此、初、啓、不、奉、尚書毛詩おと小凡そことごとく
世の中の事おと人の性も天津神の賦命也、
し、このふく中庸不天命之謂性とあり、も則ち此の事也

実、小道の大原を述ハ、
家語小類回問孔子曰、成人之行、若何、子曰、達於情性之

理、通於物類之變、知幽明之故、觀游氣之原、若此、可謂

成人矣既能成人而又加之以仁義禮樂成人之行也若乃
窮神知禮德之盛也

漢士オホホニノカミ古傳オホホニノカミ孔子イハの人も
大直日神オホホニノカミ大禍日神オホホニノカミとをイハして

此二柱の神の故よりヨク熟く古書を学ひて知色し

其涕シワサ祈行イタもイタ異イタ福日神の盛ふイタ多イタひた中ふ

をイタふイタはイタ直日神のイタ力イタもイタ及イタひイタくイタてイタ志イタをイタくイタその

涕シワサ心シワサをイタ置イタきたイタるイタ故イタ善イタ人もイタ福イタ事イタふイタ進イタひイタ悪イタ人もイタ福イタを

得イタるイタもイタあイタるイタおイタのイタ精イタ委イタ口イタ節イタ知イタるイタもイタ福イタ福イタ吉イタ凶イタも

天命アツカミと思イタふイタ也イタ

さるハ丹伯牛之疾を訪て命矣夫斯人也而有斯疾也

之イタ司馬桓魋イタの殺イタさイタせイタと計イタりイタるイタもイタ天イタ生イタ德イタ於イタ予イタ桓

魋其如予何イタ道之將行也與余也道之將寤也與余

也イタちイタとイタ云イタるイタ數イタをイタ入イタてイタ何イタ事イタもイタ天イタ神イタのイタ命イタとイタ思イタひイタ委イタねイタるイタ

也イタ

此ハ宜小然ある信き事あり今此イタ祈イタ直日神イタ福日神の

涕シワサ祈行の事イタをイタいイタふイタもイタ先イタ殷イタ太イタ成イタのイタ時イタ野イタ小イタ生イタ屋イタを

桑木クハノキ朝廷イタ小イタ生イタ七イタ日イタもイタ小イタ雨イタ手イタ小イタ搦イタるイタもイタ大イタきイタもイタあ

るイタもイタ紂イタ王イタのイタ時イタ小イタ雀イタのイタ大イタ名イタをイタ産イタるイタもイタありイタ此イタも

もイタ小イタ禍イタ事イタのイタ發イタるイタもイタ強イタくイタもイタ然イタるイタをイタ太イタ成イタハイタたイタく

心つきてかめく善事を修むに禍を免るるハ古礼大直日
神の涉靈を端りてその涉力の及へる也中々紂王ハその縁
小も驚くそ武王不亡きとてハ禍日神の中よりそを
て直日神の涉力も及ばざりし也
唯小斯の言てハ何の事りかちかくいと浅大不思ふ
人も多へたれと此ハ第一朝一夕ふまひ居りしこく書
つらうき妙ある故也其の志ある人ハよく
古へを学ばしむ大の妙あり教を悟り承りしきて中々
家語小魯哀公ハ夫國家存亡禍福信有天命唯非人
也と問へる孔子出の大成紂王の事を引て存亡禍福

皆已而已天災地妖不能加也といへること足るなり
孔子の語あり此ハ只一時善行を勧めむとて斯云へる
ありし物ハ大成ハ禍福をむと世を直し紂王の
亡ひし事あり此語よく右ひききて中々盗跖あり
如く悪事のみして榮へ孔子の如く善人の生涯より
かくて終るとも多くありしをいいて禍福皆已而已
といふ已より求むるもあハ盗跖ハ禍不あひ孔子ハ
福を待つべきなり也然道ハ此語ハ一時の善行を
勧めむとて云へるありとハ云ふあり禍福皆天而已
ともあり孔子の本意ありと云ふハ前にも引出しは

苦みたるとき子路イタ々イカ愠イカりて孔子コ云ク「子ハ由也昔者
聞諸夫子曰為善者天報之以福為不善者天報之以禍今
夫子積德懷義行之久矣奚居之窮也」と云へり、孔子コ答クて
曰伯夷叔齊ク餓死シ龍逢比干ク殺スまはる事ト云ヒひん
過不過あるハ時ト方ノありとて論シへり、又レ此ノレ
と云フ「此語實ニ孔子のいへるありとも信ズし然レも
此時ト云フもハ弱クる所ハ天命ノ出ス（此レハ福善禍淫ト）
定めざるカ合カるも果シて天命ノも時運トある事あり
と云フハ福善禍淫ト天道ト定む信ズ起リて更ニ好ム
或ハらく定ムなきハ別ニ天徳ノ大きナる所ト云ヒあるハ也

此レ常理ヲ失ヒ多クあり、又ハ福トも此レ等ハ尚書ノ天道
福善禍淫ト云ヒ易ノ鬼神ノ害ニ而シ福ノ嫌ム云フも、
命ト命トのレ多ク強ク仕リてハ説ト也
文選ニ命ト命ト論ニ命ト命ト論ニ宋儒ノ流ノ福ト也
南秋江ノ鬼神ノ論ニ白石先生ノ是非ノ論ニ伊藤
東涯ノ天道ノ論ニ物部ノ祖ノ律ノ福善禍淫ト云フ也
衆ノのレ説トも少ク或ハ善人ノ福トもあリても後世トも
人ノハハ後ト受ルらズ也、此レ則チ福ヲ作ルるハ悪人ノ福ヲ
作ルるハ後世トもハ説トらズ也、此レ福ヲ作ルるハ也ト云ヒ或ハ
善人ノ福トもあリ、祖先ノ世ト積ルるハ悪ノ解波ありと

云ひ申す悪人の福をばさふは亦も祖先のあせり善乃
餘波ありと云ひ或は悪人の福をばさふは天災^{ツナガ}と作
ふありは其罪を厚くしと罰^{バツ}をむとの所^{シヨ}為ちりおと
やう云へり此^{コト}も易の十翼左傳をばさふ何れ
の書もよくん^{コト}て語もよくん^{コト}て云へり是れと云へり
僻^{ヒカコト}説之此^{コト}熱く古を学ひてよくん其眼を以て彼
書とよくん^{コト}て語もよくん^{コト}て熱く古を学ひてよくん^{コト}て
よの理^{コト}をえり

漢國人の方りも右なりも西漢の傳説をばさふは故^{カラ}の僻^{ヒカ}
説^{コト}をばさふは難むるもたは福も皇國の學問者も

此よきをばさふは西戎人と等なりをばさふは説のよき
おと^{イト}もよきはさふもよきの也りもよき有りともあると云
ても古く天神地祇の神靈も亦もよきもよきなりは説の
人も能く齊祀^{イセキニツ}もよき事論ひあり

此事ハ我老翁^{オチ}の書^{ツミ}も委曲^{ツハラカ}に云ひ置置^{ツミ}あり
是れ古の孔子^{ホキ}の本意^{ホイ}なり漢國の^{コト}後世^{コト}もあるも中
く神祇を祀るもはさふもよきの先^{サキ}として神の事上をも
彼^{コト}不^{コト}理^{コト}をも推さむとすもよき事^{コト}非^ヒ事^{コト}なり神の事上^{コト}
更^{カラ}も西戎^{カラモト}人のよき理^{コト}論^{コト}もよき事^{コト}なりは亦も我翁の
云^{コト}へり云^{コト}へり善神をばさふも福を祈^{コト}ふもよき

為^レつゝ^レ^レ 然^レる^レ人の欲^レし^レ心^レを曲^レく^レ又^レさ^レる^レハ^レ偽^レりの
如^レく^レあ^レま^レハ^レ直^レつ^レる^レ如^レく^レさ^レる^レ然^レる^レハ^レあ^レる^レは^レさ^レる^レは
と^レさ^レる^レひ^レ他^レの見^レ聞^レを^レ恥^レる^レ人^レの上^レの^レ止^レ事^レあ^レき^レ心^レを^レ是^レ
則^レ人^レの上^レの^レ道^レあり^レま^レ稀^レふ^レその^レ心^レ配^レち^レ欲^レし^レ思^レふ^レ偽^レり
又^レる^レも^レあ^レる^レむ^レ是^レも^レ人^レの^レ志^レ心^レあ^レま^レさ^レの^レ情^レと^レさ^レる^レ
中^レの^レ有^レり^レあ^レき^レなり^レま^レへ^レる^レ事^レの上^レ不^レ道^レを^レ心^レ付^レる^レ
是^レも^レ多^レく^レあ^レる^レと^レあ^レま^レさ^レと^レま^レい^レか^レる^レあり^レ薄^レの^レ積^レの^レ流
き^レる^レ今^レの^レ容^レ易^レく^レ心^レ付^レる^レさ^レあ^レり^レ然^レと^レ熱^レく^レお^レも^レひ
め^レる^レに^レさ^レる^レあ^レま^レさ^レま^レ人^レの^レ安^レぬ^レを^レよ^レし^レと^レ神^レの
安^レん^レを^レ非^レち^レと^レま^レあ^レへ^レし^レ又^レ神^レの^レ安^レん^レを^レ直^レす^レ

と^レて^レ人^レの^レ安^レぬ^レを^レ直^レす^レは^レい^レや^レま^レあ^レる^レ事^レあ^レる^レ受^レる^レ事^レ
さ^レる^レ事^レの^レ道^レの^レ安^レぬ^レを^レ又^レ神^レの^レ祈^レり^レを^レけ^レる^レの^レ
よ^レる^レと^レい^レる^レ物^レを^レ執^レる^レを^レ捨^レる^レと^レて^レ非^レ事^レあり^レと^レさ^レ
も^レい^レや^レま^レの^レ道^レを^レた^レる^レ右^レの^レ偽^レり^レ也^レと^レ神^レの^レま^レる^レ人^レ
人^レの上^レあり^レと^レ人^レの^レ安^レぬ^レを^レい^レふ^レと^レ人^レの^レ志^レ心^レを^レ曲^レく^レ又^レさ^レる^レハ^レ
お^レも^レあ^レい^レふ^レも^レ人^レの^レ心^レを^レ曲^レく^レむ^レと^レい^レふ^レま^レあ^レる^レ事^レあ^レる^レ
ハ^レ叶^レぬ^レも^レあ^レる^レ自^レ然^レの^レ情^レを^レ知^レる^レも^レ人^レの^レ思^レを^レ安^レん^レ
そ^レの^レ情^レを^レ安^レん^レと^レす^レふ^レハ^レ只^レの^レ厚^レき^レよ^レを^レさ^レる^レの^レま^レあ^レる^レ
何^レと^レあ^レく^レ心^レを^レ不^レ足^レと^レさ^レる^レハ^レ物^レ解^レり^レて^レち^レる^レも^レそ^レの^レ情^レを^レ
心^レを^レ安^レん^レと^レす^レ是^レも^レま^レあ^レる^レ事^レハ^レ叶^レぬ^レも^レあ^レる^レ即^レち

天津神の賦^{ツク}給へる人の性^{コト}小智^{コト}即ち是志の道^{ミチ}形也

善^{ヨシ}を此志の情^{コト}りて、おの進^{ヒコト}歩^{ヒコト}なる弘^{ウタ}奉^{ヒコト}、かくも

切^{キレ}つて、其の今^{イマ}、密^{ヒソカ}に物^{モノ}おとす、あつて、其心をとり、あ

らぬ悪^{アク}事^{コト}者^{モノ}出^デるとも、あ、ゆゑ、いと、あ、き、そのの、ぬ、く、あ

ま、あ、進^{ヒコト}、ゆ、え、来^キ、人^{ヒト}の、止^ト、奉^{ヒコト}、あ、き、志^{ココロ}、心^{ココロ}、より、出^デ、る、り、あ

く、悪^{アク}、事^{コト}、あ、る、を、西^セ、成^{セイ}、人^{ヒト}、あ、つ、志^{ココロ}、の、さ、く、と、を、あ

き、あ、も、その、意^{ココロ}、を、た、と、は、て、一^{ヒト}、向^{ムカ}、に、悪^{アク}、き、ワ、き、あ

つ、と、い、ふ、へ、る、あ、つ、り、り、く、思^{オモ}、を、あ、つ、り、あ、る、限^カ、り、物^{モノ}、を

知^チ、り、て、あ、つ、心^{ココロ}、を、是^{ココロ}、お、も、つ、り、の、あ、り、能^{ヨク}、已^{ヤメ}、心^{ココロ}、小^コ、智^チ、者^{モノ}、て、此

意^{ココロ}、を、さ、く、り、し

此^{コト}、神^{カミ}、不^フ、禱^{イタナヒ}、を、さ、く、り、物^{モノ}、奉^{ヒコト}、る、も、心^{ココロ}、を、人^{ヒト}、と、異^{コト}、あ、る、り、あ

是^{ココロ}、を、い、つ、り、悪^{アク}、事^{コト}、を、お、も、つ、り、む、誓^{チカ}、ひ、を、さ、く、り、禱^{イタナヒ}、を、あ、つ、り、し

あ、つ、り、事^{コト}、の、あ、つ、り、む、志^{ココロ}、の、あ、つ、り、例^{レイ}、の、あ、つ、り、神^{カミ}、自^{ミナ}、

承^{ウケ}、ふ、志^{ココロ}、の、物^{モノ}、知^チ、る、志^{ココロ}、の、祭^{マツリ}、紀^キ、を、あ、つ、り、む、志^{ココロ}、の、

の、福^{フク}、を、與^ユ、へ、り、あ、つ、り、宣^{ノボ}、へ、り、し、古^コ、書^キ、の、あ、つ、り、此^{コト}、の、

よ、く、古^コ、を、学^{マナ}、び、く、志^{ココロ}、を、へ、し

小^コ、智^チ、見^ミ、の、学^{マナ}、ぶ、者^{モノ}、お、の、心^{ココロ}、を、く、り、あ、つ、り、あ、つ、り、神^{カミ}、の、

御^{ミコト}、上^ノ、を、勿^ナ、測^{ハカ}、り、ま、ち、ひ、せ

中^{ナカ}、の、学^{マナ}、ぶ、も、尚^{ナカ}、書^シ、金^{カネ}、藤^{フジ}、小^コ、志^{ココロ}、の、道^{ミチ}、を、知^チ、る、り、志^{ココロ}、を、知^チ、る、り、

志^{ココロ}、を、知^チ、る、り、あ、つ、り

此金縢の事ハ前ハ云へり考へ合はし

さるハ周公且その兄武王の疾を膠を以て璧と珪とを奉
りて先祖の神君に祈りて云へり以且代其之身予仁若考
能多材多藝能事鬼神云々爾之許我我其以璧與珪歸
俟爾命爾不許我我乃屏璧與珪と云へり 周公且我老翁
の云を祈りてかくはつとてしはくしとのとせり。中々の祈り
しきもとあるハ志のんふ上津世の遠くは古をた
事もあるるちやをむりてあむ

然るを彼國人王庶張仲和の徒前も云へりぬく此の
をも金縢を偽書ありと云の證とて天人子有事

于先生而可以珪璧要之乎使周公而然非違孝者矣夫と
いへりハ志の道をたしむるは

此等をも漢學者流ハ始末ありと云ふも其ハいふもあ
るまへて是ハ天津神の命を始とす其の性ハ剛と尋ぬ
へるもの也りし中々問て云り非も敬事ありてハ罰
たすともなく祈りては勿も感應ありともあハ神の
実物なるともいふ心持も事ありさるハ感應ありと
おもハ寓然ふもあさるか已ま先神の志心ハ去く測
うて奇きものして善神の福を祈りて不敬を罪め給ハぬ
ちハ然るともあはしとも時ふも是てハ忽ち罪免給るも

幸は理をもて思ふは佛の習気あり神は多々尋咎
の人乃上へ心好くしんまて善人とも時ふりて
思ふて人の為善くしぬるも必あきもあはれ中々悪しき
人とも希ふ善人ともまじりて一概に定めて記
しぬしされは崇神天皇の御代も大相方の御心よりて
疫の起りしはあやむべきふあはれをてく世間ふりるを
幸あるは本は皆福津日神の御方よりなるあはれは本の大
物と神の御心より疫を起したるも本は福津日神の
御心也疫のあはれ萬の禍幸も此例を以て悟へし
と云れしを懇くおひめくはへて是神の福をたし

悪神の福をたしは神ともは櫻の花は春咲きの極
と云は或はわたりて秋とくは冬あとも咲くことあるは
同じくはあはれありあはれをたの適あはれを以ていそ櫻
の花は春咲きものとは定めてしと云へてはむきも善神の
善ひ悪神の福をたしたるもあはれ此の御心は神の御心
へし神の御上の御心は善くは測るべきことゆゑも
畏れ御心御心をしりては他をきことあは

孔子は鬼神之神盛矣乎云は神曰神之格思不可度
矧可射思と云へては思ひ存りてし
ちり同上の條ふ云はれしは誰も神祇を敬ひあは

き理ハ大抵オホカタ小きこととて道とて女今の世小あつとて宮を設る
天皇の宗廟とて天照大御神を齋ひ多る事ハ僻事也
あまのいぢゆる淫祀とてそのもの少く禮記ハ非其祈祭而祭之
名曰淫祀無福とて左傳ハ鬼神非其族類不歆其祭
とて孔子も非其鬼祭之謂也とて敬鬼神而遠之可謂
智矣とて未能事人焉能事鬼とて云へるハ決めておありき
事ありとて人あり此ハいふ已ふ此変ハ漢學者の常
いふことありといふ女この位より及てむハ然思ハ
事あるべけれといふ事ハ義を深く知らざるものなり
さうハまの天照大御神の宮を漢國にいぢゆる宗廟也

まものぬく思ハる遠へり漢土より宗廟とてそのハ
王山中道諸侯ふまれ已ハ遠祖を多し祈を云ひてそハ
のハ祀也といハ他ホカ下ハ多しとてあはぬ制ありさうとて其
祭を多し祭を祭る多きをハ淫祀といふ事あり此ハ誠ハ
然也とてき事ありといハ天照大御神の宮祈ハ今さう申
すも古なれとも今作を瞻ミタメ有る日の祓滌神タビを齋ひ
祭を多しふ事ハ邪宮ありとて西戎國の王とももの死
祭を多しとて祈といふことハ可畏カレコく勿作モツク
あく作らふもの多しね傷者とももの言ひとてあは唯似タ
とて多ハ天皇の弟大祖小坐シレす事のとて此ハ楸カケ中とも

